

平成 26(2014)年度事業計画書

一般財団法人 高度映像情報センター
(A V C C)

自 平成 26 年 4 月 1 日
至 平成 27 年 3 月 31 日

I はじめに

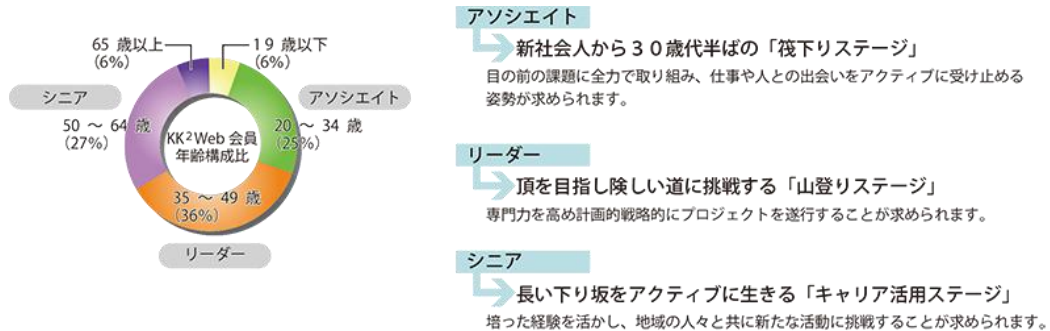
コミュニティ再生、組織の活性化

AVCC は半世紀に亘り地域・企業・学校・ODA における高度な映像情報メディアの利用についてのコンサルティングを行い、教材・システム・運用の三位一体となった利活用を推進し、日本のみならず発展途上国での職業能力の向上、学習機会の提供による生涯学習の推進、文化・生活の向上、産業経済の発展に寄与してまいりました。

人に例えると AVCC も「シニア」ステージを迎えました。培った経験を活かし、地域や組織の構成メンバーの「しごと力向上」を推進し、コミュニティ再生、組織の活性化といった新たな課題に取り組んで参ります。

[KK²(霞が関ナレッジスクエア)無料 web 会員 年齢構成比]

KK²は働く人のライフステージを三つのステージに分けプログラムを企画しています。



地域、組織、個人の「レジリエンス(弾力的)」向上

東日本大震災発災から 3 年が過ぎました。KK²(霞が関ナレッジスクエア)が岩手県気仙地区で取り組んできた「デジタル公民館まっさき」活動を通して、行政は「ハードウェア」の復興で手一杯、人と人の絆やコミュニティの再生といった「ソフトウェア」は地域住民任せになっており、よそ者は継続して「寄り添う」くらいしかできないことを学びました。また「国土強靱化(ナショナル・レジリエンス)」という命題の下で、疲弊する社会資本「ハードウェア」をメンテナンスすることも勿論大切ですが、国民一人一人が、ストレスに負けない「ちから」、困難に適応していく「ちから」、挫折をはね返す「心の弾力性」を磨くことが喫緊の課題であることも学びました。



AVCC のコンサルティング事業は、行政や組織の「ハードウェア」導入支援を中心に進められてきましたが、今後は KK² 事業とのシナジー効果を生み出し、地域、組織、個人の「レジリエンス(弾力的)」向上を目指して活動してまいります。

Ⅱ 霞が関ナレッジスクエア(KK²)事業

我が国のビジネスパーソン能力開発・企業内教育には次のような課題があります。

- (1) 教育内容が職務遂行に必要な知識・スキルに偏向している。
- (2) 画一的で同質の内容で個々の専門力を高めるプログラムになっていない。
- (3) 各人の「人間力」「知・考力」「行動力」を高めるプログラムが殆ど無い。

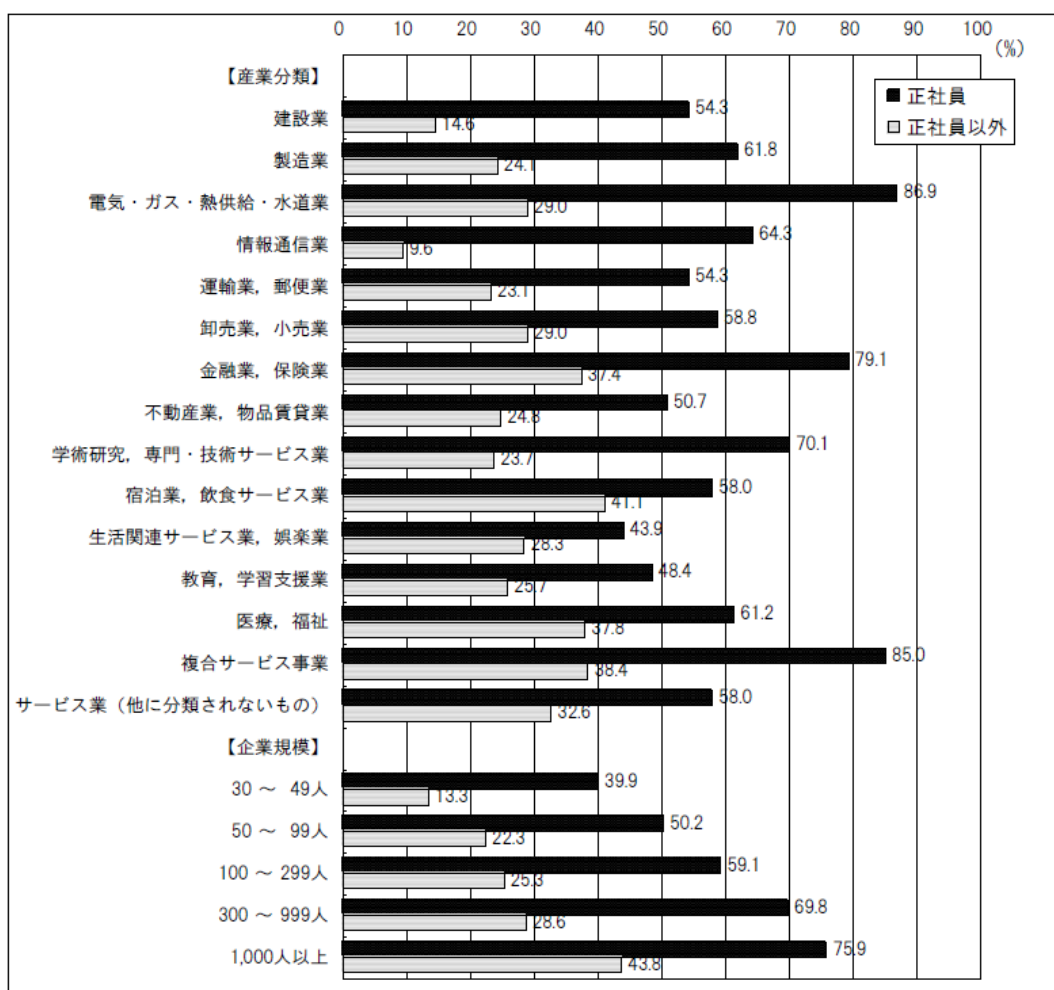
また学習機会という視点では、

- (4) 正規雇用者と非正規雇用者の「学習機会」に著しい格差が生じている。
- (5) 従業員数企業規模が小さくなればなるほど「学習機会」に恵まれない。

といった格差がますます広がる事に強い問題意識を持ちつつけております。

参考:「計画的な OJT を実施した事業所(産業・規模別)」

(厚生労働省 平成 24 年度 能力開発基本調査 より)



我が国の産業経済の発展の為に、ビジネスパーソン能力開発は大変重要な課題ですが、個々企業は学校ではなく業務が優先されることは否めず、自ずと限界があります。

KK² 事業は乾燥した砂漠にスポイトで水を垂らすような気の長い取り組みですが、学校教育や企業内教育では教えていない、「人間力(Feel)」「知・考力(Think)」「行動力(Act)」を、世代を超えて、時空を超えて学べる学習機会を提供しています。出来るだけ多くの企業でビジネスパーソンが「自ら成長する!」という強い意思を持ち、社会での様々な「学習機会」を活かし、気付き、考え、成長していくことが望まれます。

KK² では、社会に貢献している人、活躍する人、優れた仕事をする人を「エキスパート」、エキスパートが備える能力を「しごと力」と定義し、Feel(人間力)、Think(知・考力)、Act(行動力)、Skill(技能)、Knowledge(知識・理解)の5分類17項目の整理したプログラムを提供しています。提供しているプログラムはライブ配信やオンデマンドで学ぶことができ、すべて無料で視聴することができます。(無料 WEB 会員登録が必要です。)

[KK²「しごと力の分類表」]

I -1 Feel: 人間力	I -1-(1) 自己認識力
	I -1-(2) 感情マネジメント力
	I -1-(3) 共感力
	I -1-(4) コミュニケーション力
I -2 Think: 知・考力	I -2-(5) 状況把握力
	I -2-(6) 原因究明力
	I -2-(7) 選択決定力
	I -2-(8) リスク分析力
I -3 Act: 行動力	I -3-(9) 実行力
II Knowledge: 知識・理解	II -(10) ビジネス
	II -(11) 法律
	II -(12) 健康
	II -(13) 生活・文化
III Skill: 技能	III -(14) ビジネスマナー
	III -(15) ビジネスキル
	III -(16) IT スキル
	III -(17) マネジメントスキル

(1) 人と人の絆と地域の再生

東日本大震災で被災した岩手県気仙地区の大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)を拠点として活動する中で、被災地での「次は君たちの番だ!」との強いアドバイスを心得て昨年度より新プログラム「霞が関防災キャンプ」「市民救助隊訓練」をスタートし、一人ひとりの防災体質を磨いていく活動をすすめます。

ー1 共に考え共に学ぶボランティア「デジタル公民館まっさき」活動(平成 25 年度より継続)

東日本大震災で被災した岩手県気仙地区の大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)を拠点として活動する、地域の方と共に学び共に考えるボランティア活動「デジタル公民館まっさき」は、平成 24 年度 4 月から 8 月迄は自主事業、9 月から 3 月までは文部科学省(復興庁)委託事業として、また平成 25 年度は自主事業として取り組んできました。平成 26 年度は「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」に申請中です。(H26 年 3 月末採否決定予定)

発災から丸三年、未だに仮設住宅住まいが続く高台移転に向けやっと動き始めたところで、再生への道のりは険しいものがあります。KK² は身の丈に合った持続可能な活動を継続していきますので、“思い”ある方のご支援ご協力を心よりお待ち申し上げます。

① 「末崎(まっさき)」が「主」となる運営協議会の設立

末崎地区公民館と傘下の地域公民館館長、復興推進委員会、まちづくり協議会、PTA、女性組織、交通安全・防犯・消防団リーダー等、末崎(まっさき)のコミュニティリーダー、大船渡市教育委員会、研修会活動・地域学習活動・事務局機能を支える霞が関ナレッジスクエア(KK²)メンバーで運営協議会を構成し、地域の課題解決に必要な「学び」を企画協働します。

ふるさとセンター⇄KK²を繋ぎ TV 会議での運営協議会や事務連絡会を開催、必要に応じて TV 会議を活かした学習指導、ミニ講座、遠隔カウンセリング等も行います。奇数月には KK² がコーディネートする研修・地域活動チームがふるさとセンターを訪問し、運営協議会メンバーやリーダーと地域の課題解決に資する研修会・現地活動プログラムを実行します。

② プログラムの開催

「末崎(まっさき)」のメンバーと KK² がコーディネートし、研修・地域活動チームが運営し共に学ぶプログラムを開催します。参加対象者は、子どもからシニアまで様々な世代のみなさんです。

(a) 災強の街づくり研修「JAPAN is FAMILY まっさきキャンプ」(案)

「国土強靱化(ナショナル・レジリエンス)」という命題が掲げられ、公的な体制整備が進められています。しかしそれだけでは十分ではなく、国民一人ひとりに自分を守る自助、助け合う共助の覚悟がなければ、防災は機能しません。このキャンプを通して行政と市民の壁

を超え、みんなが日本という一つ屋根の下で暮らす家族として心をつないでいきます。まっさき地域ジュニア防災リーダーの育成等の検討にも取り組みます。「末崎(まっさき)」のメンバーと KK² がコーディネートする研修・地域活動チームが共に学びます。講師は、後述の「霞が関防災キャンプ」の講師でもある鎌田 修広氏(株式会社タフ・ジャパン 代表取締役)を予定しています。

(b) 「まっさき、気仙に学ぶ」

「末崎(まっさき)」地区、広げて「気仙」地区は、もともと地域の団結力「結の精神」が強く、ユニークな伝統文化を有する地域です。3.11 の被災により「絆」が強まり地域の「レジリエンス(弾力的)」が増した good practice を聴き、自ら「気付き」「考え」「行動する」きっかけを掴みます。講師は、運営協議会で決定していきます。

(c) KK² 文化プログラム出演者による「土曜日教育活動推進プラン」

平成 24 年 4 月より KK²⇒ふるさとセンターを繋ぎ、キャリア教育番組「エキスパート・スタジオ」、KK² 文化プログラム「DREAMS ALIVE MUSIC!! いつでも夢と音楽を」「霞が関寄席」等の通信衛星(NICE-NET)によるライブを行ってまいりました。その出演者にふるさとセンターに登場いただき、質の高い文化的な土曜授業を実施します。声楽家であれば「歌唱指導」から「まっさき合唱団」の設立、落語家・マジシャンであれば「かくし芸指導」から「素人寄席」開催といった活動に繋がるきっかけとなるプログラムを目指します。

また、ハイビジョンTV会議装置を活用して、末崎(まっさき)の中学生に対する「数学」「英語」等の学習相談、小学生への「世の中学習」、中高生へは「キャリア教育」の視点で、のミニ講座やカウンセリング等、ニーズに合わせて開催します。霞が関ナレッジスクエア側にはこれらに対応するシニアの専門家が必要に応じてスタンバイ。将来を担う子どもたちの育ちを応援します。

(d) 「パソコン・ネットよろず相談」

平成 24 年度より継続して末崎(まっさき)で開催してきた「パソコン・ネットよろず相談」を原則隔月 奇数月に KK² がコーディネートする研修・地域活動チームにより開催します。

平成 26 度中には「末崎(まっさき)」のメンバー同士で「共に学ぶパソコン・ネット教室」を開催し、末崎の人が自ら「デジタル公民館まっさき」の更新を日々行える体制を目指します。

(e) KK² プログラムとの連携

KK² で実施するプログラムのサテライト会場としてふるさとセンターで「末崎(まっさき)」のメンバーに学びと交流を提供します。

KK²⇒ふるさとセンターを通信衛星(NICE-NET)で繋ぎ KK² プログラムのライブ受講を実施します。(「エキスパート・スタジオ」×6 本、KK² 文化プログラム×8 本、計 14 プログラムを

予定。)また、ふるさとセンター⇄KK²間でのハイビジョン TV 会議装置により、運営協議会等多人数での TV 会議や、遠隔カウンセリングの実施を行います。

③ ICT 環境の整備・管理・運用(ふるさとセンター・小中井仮設住宅集会所)

既設の ICT 環境は被災地での運用が技術的に難しい為、KK²よりリモートで管理・運用を行っています。本年度も継続し本事業での活用と住民の方々の利用に供します。NTT 光通信サービス、IPS、無線 LAN、ノート PC によるインターネットのアクセス環境の構築・提供・管理を行います。フリースペースへ常設パソコン 2 台を設置し、パソコン・ネットよろず相談事業などでは貸出用パソコン 5 台を使用します。

④ Web サイト運用「デジタル公民館まっさき」と各種情報交流の活性化 <http://www.massaki.jp/>

「デジタル公民館まっさき」Web サイトを更新充実します。毎月 20 日発行、末崎地区 1,500 世帯、5つの仮設住宅住民に戸別配布される紙媒体「館報まっさき」の紙面や公民館の各部屋(会議室、研修室、和室、調理室、体育室)の使用予約状況のデジタル化とネット公開など、リアルな公民館活動のデジタル化と情報公開を行います。また、前述の学習プログラムの映像収録と動画コンテンツの公開、地域活動、地域情報の収集と発信等を行います。

合わせて、facebook も「デジタル公民館まっさき」活動の仲間づくりや活動を広める上で有効に活用します。そのほか Web メール、スカイプ等を活用し、「末崎(まっさき)」の方々同士や、「末崎(まっさき)」に関心のある人同士の意見交換や情報交流にも取り組みます。



[デジタル公民館まっさき TOP]



[デジタル公民館まっさき facebook]

ー2 災強！震が関防災キャンプ ～帰宅困難を体験して「防災体質」になろう～

災害発生により帰宅困難者となったという想定で、参加者は制約のある環境下、見知らぬ者同士で助け合いながらKK²で一晩を過ごすという体験を通じて自分たちで考え、学び、気づきを得ることを目的としています。プログラム終了後メーリングリストで21日間にわたって講師と参加者が交流を行い、それぞれの課題をクリアすることで、防災意識を継続していき「防災体質」を目指します。今年度3回開催予定です。



[平成 25 年 10 月 18 日開催 活動風景]

ー3 命をつなぐポジティブ防災 ～2日間で市民救助隊(CFR)隊員を訓練します～



[平成 25 年 11 月 16 日開催 活動風景]

大規模災害が発生すると、ライフラインや警察、消防といったあらゆる機能が麻痺し被災者は一時的に孤立無援の状況に陥ります。その中でいかに自分の家族とコミュニティを守り生き延びるかが課題です。その為の基本的な学びを行うプログラムが“市民救助隊(Community First Responder)養成訓練”です。今年度一回開催予定です。

ー4 「震が関オープンランチミーティング」の開催

3.11 をきっかけにスタートした中央省庁の若手官僚、NPO リーダー、企業の CSR 関係者、KK² スタッフによる「震が関オープンランチミーティング」(月 1 回開催)も、継続的に3.11以降の復興に向けた官民のインフォーマルな情報交換の場となり、各メンバーの立場でできることを持ち寄り復興地域再生に向けた連携協働を進めております。



[平成 26 年 3 月 10 日開催 活動風景]

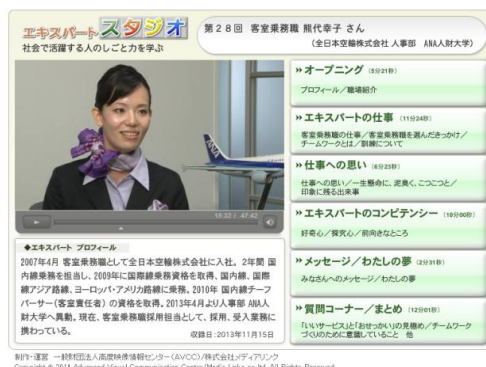
(2) しごと力向上・エキスパートと学ぶ

学生や社会人が「働く」ことについて考え学ぶ機会を提供する様々なプログラムを提供します。

ー1 キャリア教育番組「エキスパート・スタジオ」

「エキスパート・スタジオ」は、様々な分野で活躍するエキスパートをゲストに迎え、「仕事とは」「働くとは」「働く喜びとは」について考え学ぶインタビュー形式のキャリア教育番組です。ゲストは、さまざまな職業で活躍する若い世代から、人生二周目で社会の課題解決に挑戦するアクティブシニアまで、目の前の課題に全力で挑戦するエキスパート達です。

「アソシエイト」「リーダー」「シニア」各層の参加者が、エキスパート達の考え方、行動、しごと



[コンテンツ画面] 平成 25 年 11 月 15 日開催 第 28 回
客室乗務員 熊代幸子さん(全日本空輸株式会社)

力、コンピテンシーを紐解き、それぞれの目標となる「ロール・モデル」を見出すことが狙いです。昨年度で 30 人のエキスパートを紹介しました。今年度も 6 名のエキスパートを紹介する予定です。

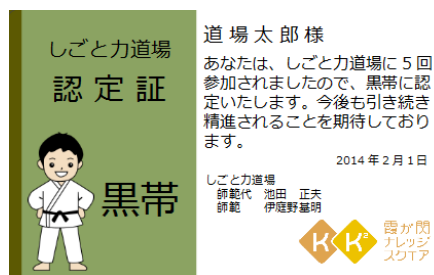
ー2 しごと力道場

「リーダー」層を対象に普遍的なテーマについてディスカッションを行い「自分で考える力」「自分を客観的に評価する力」を養う、リーダー育成を目的とした「KK² しごと力道場」を開催します。参加者は 10 名程度の少数とし、年 3 回開催の予定です。(06/07(土)、10/04(土)、02/07(土))

また、継続的に参加することによって、思考力を高めることができるため、今回より段位認定をスタート。参加回数に応じて、白帯(1 回)、茶帯(3 回)、黒帯(5 回)の認定証の発行を行います。



[平成 26 年 2 月 1 日開催 しごと力道場 風景]



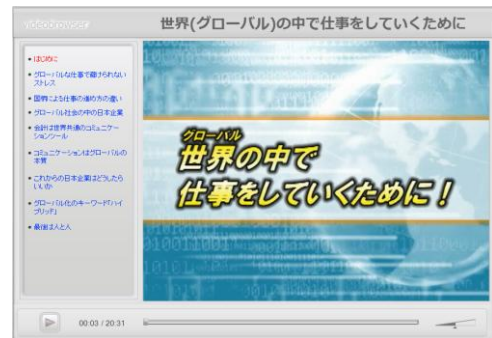
[認定証]

ー3 しごと力向上ライブラリー

学校での知識偏重教育、企業での業務遂行やコンプライアンスを目的とする教育に対して、「しごと力」の学習は自己責任に帰す傾向が強くなり、むしろ後退しています。

いつでもどこでも誰でも学べる「KK²しごと力向上ライブラリー」は 66 講座 185 単元(2014 年 3 月現在)を既に開発し、今後も毎月 1 単元新プログラムを開発してまいります。メンバーの組織的なご利用や、教育研修体制の弱い中小企業等でのご利用をいただくために、さらなる周知活動を行います。

今年度は、クレーム対応の基本、3.11 の体験を通じて脆さが露呈したリスクマネジメントと危機管理などを取上げる予定です。



【平成 25 年 10 月公開
「世界の中で仕事をしていくために！」】

ー4 カウンセリングプログラム

主に「アソシエイト」層を対象に、「自分にはどんな仕事に向いているか」、「どんな仕事をするべきか」、そして「どんな仕事ができるのか」・・・このような問いについて、長年、国内外で多くのキャリア相談を手がけてきたスペシャリストが面談を行います。明確な答えが出るというものではありませんが、自分の悩みや課題を整理して第三者に聞いてもらうよい機会になります。

実施にあたってはNPO法人日本キャリア開発協会(JCDA)の協力を得て、月曜日から金曜日の週5日、16:00/17:00/18:00/19:00の4枠で、ネットによる事前予約を受けて原則初回無料で実施しています。カウンセリング時間は1人1回45分程度となっています。

ー5 キャリアカフェ

カウンセリングプログラムと連携し、様々な分野で活躍している方を「キャリアメンター」としてお招きし、自分の「しごと」や「キャリア」について語っていただくプログラムです。司会者と、10人程度の参加者という小規模なスタイルで、率直な質疑と交流を行います。年5～6回程度開催します。



【平成 25 年度 5 月 23 日開催 風景】

－6 KK² good books

KK²では、(1)人と人の絆、地域の再生、(2)しごと力向上・エキスパートと学ぶ、(3)社会の課題を担うアクティブシニアを応援、という三つの視点で推薦書籍を厳選し、昨年度までで180冊のKK² good booksを選んできました。

今年度も毎月10冊、年間120冊程度のgood booksを選び、約500文字程度の紹介文としごと力カテゴリー分類とともに、書籍情報を提供します。よい本を読みたいと思うが、図書館や書店で本を選ぶ時間がとれないみなさんに、本を読むきっかけを提供していきます。

－7 イノベーションプログラム

今年度も、伊藤健二主席研究員を中心に、「やる気」「モチベーション」「アクティブラーニング」「リジリエンス」「再チャレンジ」等をテーマに産学官連携プログラムを開催します。

－8 コンピテンシー・チェック

社会に貢献している人、社会で活躍する人、優れた仕事をする人が備える「しごと力」の中核となるコンピテンシー「Feel(人間力)、Think(知・考力)、Act(行動力)」について理解し、自分自身の学習課題を知るプログラムです。KK²サイトで公開するだけでなく、学習者をLMSで管理し個人の学習履歴を収集提供するサービスも行っています。昨年度に引き続き、今年度も早稲田大学人間科学部の講座で活用いただく予定です。

(3)新しい役割を担うアクティブ・シニアを応援

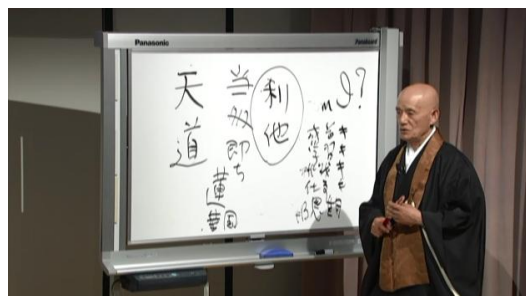
地域再生には、「シニア」の経験と知恵と力が必要不可欠です。社会の課題解決にチャレンジする元気な「シニア」の活動を応援します。

ー1 生涯現役版「エキスパート・スタジオ」

定年退職後、企業人間から地域人間へ、新たなフィールドで課題解決に活躍する「シニア」をゲストに迎え、人生二周目のやりがい・生きがいやこれからの夢などを語っていただきます。

「生涯現役社会」といわれる一方、実際には社会に受け皿がないのが実情です。活躍するシニアの方々を紹介する「エキスパート・スタジオ」を積み上げていくとで、ロールモデルを見つけていただきたいと思います。

前述「(2)しごと力向上・エキスパートと学ぶ ー1 キャリア教育番組「エキスパート・スタジオ」の一環として、アクティブシニアをご紹介します。



平成 26 年 1 月 30 日 開催 第 29 回
僧侶 柴田文啓さん(開眼寺 住職)

[これまでご紹介したシニアのエキスパートのみなさん]



第30回 塩谷靖子さん	ソプラノ歌手	(平成26年3月25日開催予定)
第29回 柴田文啓さん	僧侶	臨済宗妙心寺派開眼寺 住職
第19回 堀池喜一郎さん	ソーシャルプロデューサー	好齢ビジネスパートナーズ 世話人
第17回 豊重哲郎さん	ソーシャルアントレプレナー	やねだん(鹿児島県鹿屋市串良町柳谷集落) 自治公民館長
第13回 安藤友彦さん	農業家	
第12回 高畑敬一さん	ソーシャルアントレプレナー	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ会長
第11回 藤原瑠美さん	ソーシャルプロデューサー	福祉の勉強会「ホスピタリティ☆プラネット」主宰
第10回 酒井睦夫さん	地方議会議員	千葉県流山市議会議員

(4)文化に親しむ交流事業(KK²文化プログラム)

文化に親しみ、人と人との交流の場を提供する「KK²文化プログラム」は、文化庁「霞が関から文化力プロジェクト」事業として展開しています。



ー1 「KK²文化プログラム」出演アーティスト公募事業(KK² エントリープログラム)

KK²は2008年の開設時より、発表の機会が少ない若手落語家や講談師に活動の場を提供する「霞が関寄席」(月1回開催)や、若手音楽家の発表の場を提供し、近隣のビジネスパーソンに文化や音楽など気軽に楽しんでもらう機会を提供しています。

今年度より、もっと広くさまざまなアーティストにKK²を活用していただくために、様々な分野で技術や芸を磨き、その発表、公演の場を求めているアーティストを対象に出演者を募集します。現在、落語、バロック音楽、クラシックなどの分野の方々から応募をいただいています。

ー2 霞が関寄席

熱心に芸を磨く落語家、講談師の方々に高座に上る機会を提供し応援するプログラムです。仕事に忙しくストレスの多いビジネスパーソンに、伝統芸能に親しみ、笑い、ストレスを発散し、リラックスする場を提供します。年数回開催予定。

ー3 霞が関ミュージックサロン

一流の演奏家による音楽やカルチャー、伝統芸能に親しんでいただけるプログラムを(株)ミュウカルと共同開催しています。海外在住日本人演奏家の一時帰国にあわせたミニコンサート、また触れる機会が少なくなっている日本の伝統芸能古典芸能に親しむミニコンサートです。また、演奏後、演奏家と参加者との交流会も実施しています。年数回開催予定。

ー4 食と文化講座

2008年度から「ワインセミナー」として、ワインを中心としたプログラムを26回開催してきました。今年度より「食と文化講座」に変更し、ワインにとどまらずより広い分野の食と文化を学んでいただきます。一昨年度より大好評を得ている、チーズの専門家を招いてのチーズとワインの組み合わせを学ぶ講座(2回予定)を中心に、ワインのぶどう品種の多様性を学ぶ講座(1回予定)、そして昨年90年を迎えた日本のウイスキー造りについてブレンダーを招いてお話を伺う講座を予定しています(1回予定)。いずれも実際に味わっていただきながら学んでいただく講座です。

ー5 霞が関シアター

自主上映会での公開を目指し製作されているドキュメンタリー映画、教育・文化映画に上映の機会を提供、自主上映会や製作団体等との共催プログラムとして開催します。上映後は制作者や有識者を招きトークイベントを行います。年数回開催予定。

ー6 江戸 TOKYO 散歩～広重「名所江戸百景」と東京の今～

KK² 開設記念に制作したオリジナル作品「江戸TOKYO散歩」は、歌川広重の最高傑作といわれる「名所江戸百景」から春夏秋冬の12景をモチーフに紹介、江戸と現在の東京の街なみ、人々の営みを映像に収めています。すでに、多言語(英語/韓国語/繁体字/簡体字)に対応し、webで公開しています。世界の方に東京の魅力を発信するために、web会員登録をしなくてもご覧いただけるようにしています。

(5)KK²事業の改革

KK²事業収入は協賛会費収入とレンタルスペース貸出し収入で賄い、イベント・セミナー参加者にも実費をご負担いただき、一切行政に頼らない運営を行ってきました。ネットワーク&技術提供を株式会社メディアリンクにご支援いただき、協賛メンバーに支えられ活動していますが、昨年度協賛メンバー数が減少しレンタルスペースの稼働も低下しました。

ささやかですが昨年度PC席をラウンジからホワイエに移し8席から4席に減らし、ラウンジに十数名で利用できるTV会議スペースを新設、レンタルスペースを増やしました。持続可能な事業とするための改革を続けてまいります。

ー1 スタジオ貸出

メンバー及び一般に対して、セミナー、会議、交流会(パーティ)等のスペース貸出し及びライブ配信・収録・同時通訳・TV会議等の技術サービスを行います。

貸出し実績が低迷している現状を踏まえて、PR活動の強化と料金体系等を見直し、稼働率の向上をめざします。

- ・開館日：月曜日から土曜日(祝日/年末年始を除く)
- ・開館時間：07:30～23:00

ー2 交流カフェ「エキスパート倶楽部」貸出

一般向けの、ランチ・カフェサービスは、平日 11:00～15:00 に行い、それ以外の時間帯はレンタルスペースとしてご提供(貸切、予約制)します。早朝及びランチ・カフェサービス後(15:00以降)の講習会/会議、夕刻や土日の交流会・パーティ利用について、稼働率の向上をめざします。料飲サービスは株式会社メディアリンクに委託しています。

(6)KK²からの情報発信、その他

ー1 KK² WEB サイトのリニューアル

いつでもどこでも誰でも学べる学習サイトとして、昨年度リニューアルを行いました。アクセス解析などから得られるデータを活動評価や活動計画策定に活かし、KK²の付加価値とKK²利用者の拡大を目指します。

- ・学習記録を蓄積する(eポートフォリオ)機能
- ・プログラムに対する学習者の評価(アンケート)取得機能
- ・学習者のコミュニティ機能(facebook連動)
- ・コンピテンシー・チェックによる学習ニーズ把握機能
- ・ネットでのレンタルスペース予約状況確認と利用申し込み機能

ー2 メルマガ「メッセージ from KK²」

毎週金曜日にメールマガジン「メッセージfrom KK²」を発信します。構成は巻頭言「メッセージ from KK²」「キャリア応援プログラム」「文化プログラム」「ライブセミナー ライブラリ」「文化プログラム ライブラリ」「good books」「交流カフェエキスパート倶楽部」「事務局からのお知らせ」で構成しています。年間発行予定数:約50回。

ー3 AID ステーション活動

3.11東日本大震災発災時に、KK²のスタジオ・ラウンジ・エキスパート倶楽部のすべてのスペース・設備・PC/ネット環境・保有する水食料を提供し、帰宅困難者に対するAIDステーション活動を実施しました。この経験を踏まえ、引き続き大規模災害時にAIDステーションとして活動できるよう体制を整えます。



Ⅲ コンサルティング事業

(1) 防災情報コンサルティング業務

平成25年度においては、各地で観測史上最高となる豪雪や豪雨、さらには竜巻などの発生により、甚大な被害が続発しました。また昨年、政府の中央防災会議では、近い将来にも発生が懸念される首都直下型地震の被害想定見直しや東海・東南海・南海の三連動巨大地震の最大クラスの被害想定を設定するための検討会議が行われています。

このような中、各自治体では、防災計画の見直しや追加対策などが急がれ、住民の生命・財産を守るための情報伝達システムも、さらなる高度化や強靱化が求められています。

東日本大災害において、防災行政無線からの住民への放送は、有効活用が図られたものの、すべての住民に情報伝達されるには、情報の内容や受け手の環境に応じ、多様なメディアを連携させた多層的なシステムを構築する必要性が浮き彫りになりました。

AVCC では、防災行政無線をはじめ消防無線やコミュニティ FM などの無線系システム、ケーブルテレビやインターネット(ホームページ・SNS 等)の有線系システム、さらには衛星系システムや GIS を含む映像系システムに至るまで、いままでの多様なコンサルティングノウハウから、各自治体の環境に最適な災害情報システムを構築するための設計コンサルティング業務を行います。

(2) システム構築コンサルティング業務

総務省が策定した「地方公共団体における行政改革の推進のための新たな指針」において、行政手続のオンライン化の推進や共同アウトソーシングの推進等に取り組み、電子自治体を推進することとされ、その際、業務・システム全体を最適化する観点から、ITを活用した業務改革を実施し、住民サービスの向上を図ることとしています。特に、旧式(レガシー)システムについては、自治体ごとにカスタマイズを行って運用されていることが多く、頻繁に発生する法改正等によるシステム改修費用が大きな負担となるばかりか、将来的なクラウド化への移行について検討する際も、このことが大きな障害となっています。

AVCCでは、情報システムの品質向上、コスト削減を図るための業務・システムの最適化、さらにはシステム調達の適正化に至るまでの支援を中心に、次のシステム構築に関するコンサルティング行ってまいります。

ー1 基幹システム再構築支援業務

基幹システム更新にあたり、現状分析、RFI(Request For Information)、導入費用・運用費用等のコスト削減等の検討結果を踏まえ、当該自治体に最適な業務・システムを提案し、その調達仕様書及び附帯資料作成支援を行います。

さらには、昨年5月成立したマイナンバー法に伴い、平成28年1月の行政機関のシステム運用開始までに、各自治体では、さまざまな業務系システムの改修方針を決定し、新規システムの開発等が必要となります。AVCCでは、本業務の支援についても取り組んでまいります。

① 電子自治体構築支援業務

電子自治体の推進に伴い、税の電子収納をはじめとするインターネット系の住民サービスシステムの構築やそのバックボーンとしての自治体クラウド導入について、関係経費の削減や事務負担の軽減、さらには住民の利便性向上を目的とし、最適なシステム及びネットワークの構築を支援します。

② 地域活性化支援業務

ICT を活用した新たな街の活性化を目的として、ICT を活用した新たな街づくりの在り方、その実現に向けた推進方策やシステム構築方策についてコンサルティングをいたします。

③ 教育・文化施設等における情報システム構築支援業務

公民館、公共図書館、生涯学習センター、教育センター、学校ならびに企業内教育施設等での情報システム・教育システム導入計画、リニューアル計画等に関連した基本計画、設計、運用計画、維持管理計画の策定業務を行ないます。

Ⅳ システム運用保守等支援事業

AVCC では、さまざまな情報システムの運用にあたり、専門的な知識や経験を有した技術者が日々のオペレーションのみならず、日常点検・定期保守などのメンテナンスまでのトータルな支援サービスを提供してまいります。

(1) TV 会議システム運用業務

独立行政法人国際協力機構(JICA)の委託を受けて、JICA が運用する TV 会議システムの機能を最大限に活用し、より効果的かつ効率的な技術協力、有償資金協力、無償資金協力等の JICA 事業を実現すること、及び事業の機会拡大に資することを目的として、TV 会議システムの運用業務を実施します。

具体的には、本運用業務に必要な業務従事者を JICA 内に配置し、JICA 本部 TV 会議室、国内拠点、在外拠点等を結んでの TV 会議実施業務やそれに付随する共通業務を行います。

(2) 情報システム運用保守業務

公共施設、各種団体・企業に設置されているコンピュータネットワークシステムや各種 AV システムを対象に、オペレーションから機器の管理・日常点検業務及び運用業務の支援を行ないます。また、被災地の公民館等においても、同様の活動を行い、自立できる仕組みを検討してまいります。

V 情報セキュリティ支援事業

平成 28 年度より利用が開始されるマイナンバー制度は、社会保障がきめ細やかかつ的確に行われる社会、行政に過誤や無駄のない社会、国民にとって利便性の高い社会等の実現を目指し、導入されるものです。しかしその一方で、番号制度導入により、国家により個人の様々な個人情報が一元管理されるのではないかとといった懸念や、財産その他の被害が発生するのではないかとといった懸念等も発生しています。

これらの懸念を踏まえ、国民の特定個人情報が適切に取り扱われる安心・信頼できる番号制度の構築のために、業務システムごとのプライバシーに与える影響や個人情報の取り扱い規定の再評価が自治体の喫緊の課題となっています。

AVCC では、自治体のこのようは背景も視野に、次の情報セキュリティコンサルティングメニューを用意しております。

(1) 特定個人情報保護評価(PIA)業務

AVCC では、プライバシーマークの認定審査等のノウハウを活かし、プライバシー等に配慮した取扱いを確立するための仕組みづくりをコンサルティングします。特定個人情報ファイルを保有することで具体的にどのようなリスクがあり、どのような措置を講ずるべきかという、個人情報保護及びプライバシー等保護のための具体的な検討・評価を体系的に行える支援をします。

(2) 情報セキュリティ外部監査業務

情報セキュリティを維持・管理する仕組みが組織において、適切に整備・運用されているか否かを第三者の立場から点検・評価します。また、情報セキュリティに関する管理及び対策が適切であるか否かを示すとともに、情報セキュリティ上の問題点の指摘と改善の方向性を提言します。

地方公共団体での情報セキュリティ外部監査は、情報セキュリティポリシーの実施状況を点検・評価するものであり、監査項目の設定においては、当該団体の監査テーマに応じた監査項目を情報セキュリティ監査項目から抽出する助言型監査を致します。

(3) ICT 部門における業務継続計画(BCP)作成業務

大規模な災害、事故が発生した場合、組織及び周辺地域の被害により人、物、情報、資金、公共インフラ等が利用できる資源に制約がある状況に陥ることが予想される。ICT 部門における BCP 作成は、いかなる緊急時の状況においても、中断させることができない、あるいは復旧を優先すべき重要業務を事前に特定することが肝要です。事前のバックアップ準備やリスク軽減、事後の災害時応急対応、復旧手順の明確化、指揮命令系統の確保等の計画等を定め、被災の影響を最小限にとどめることを助言しながら、BCP の作成を支援いたします。

(4) プライバシーマーク認定審査支援業務

一般財団法人日本情報経済社会推進協会(JIPDEC)及一般財団法人放送セキュリティセンターが行なっている、個人情報適切に取り扱っている組織を一定の基準で認定し、プライバシーマークの使用を許諾する制度に係る審査業務を支援します。

(5) 情報セキュリティ/個人情報保護等研修支援業務

行政機関や民間企業の情報セキュリティ/個人情報保護に関する研修を行ないます。意識づけ研修から顧客の環境に合わせたケーススタディ演習まで、さまざまな状況に応じた研修を実施します。

VI 教材企画制作事業

企業や各種団体機関等の教育・技能訓練・広報といった分野において、教育目的にふさわしい、映像を使った効果的な研修教材の企画・制作を行います。教材の制作だけでなく、インターネット等の技術を活用しいかに教育効果を高めるかについてトータルな企画提案も行います。

(1) 映像教材制作事業 (DVD 制作/WEB コンテンツ制作)

昨年度実績のある国家資格をはじめ各種資格取得者向け人材育成教材制作を中心に、リクルートや広報に活用できる映像制作を行います。また、教育目的を実現するために効果的な教材制作の企画提案を行います。

(2) オンライン学習サービス事業

いつでもどこでも学べる、学習履歴の管理が行えるオンライン学習サービスを提供します。全国にいる各種資格取得者向けの継続教育や、多忙な業務で研修時間が取れない職員の研修などに活用いただけます。KK²の既存プログラムと独自に開発したプログラムを組み合わせ、短期間に低コストでオリジナルオンライン学習サービスを提供することができます。

(3) 生涯学習情報提供システムの提案事業

インターネットを活用した生涯学習情報提供システムの提案を行います。教育委員会の職員をはじめ、関係団体や個人(ボランティア等)など外部関係者との連携を可能とし、職員や外部関係者の運用負担を軽減したシステムを昨年度開発しました。今年度は引き続きこのシステムを各自治体へ提案していきます。

また、KK²のWEB サイトリニューアルで開発したCMSを活用し、教育プログラムの企画や告知、募集受付から開催アンケート集計まで、運用負担とランニングコストを軽減されるシステムの提案も行います。

以上